

週間市場レポート (2020年11月2日~11月6日)

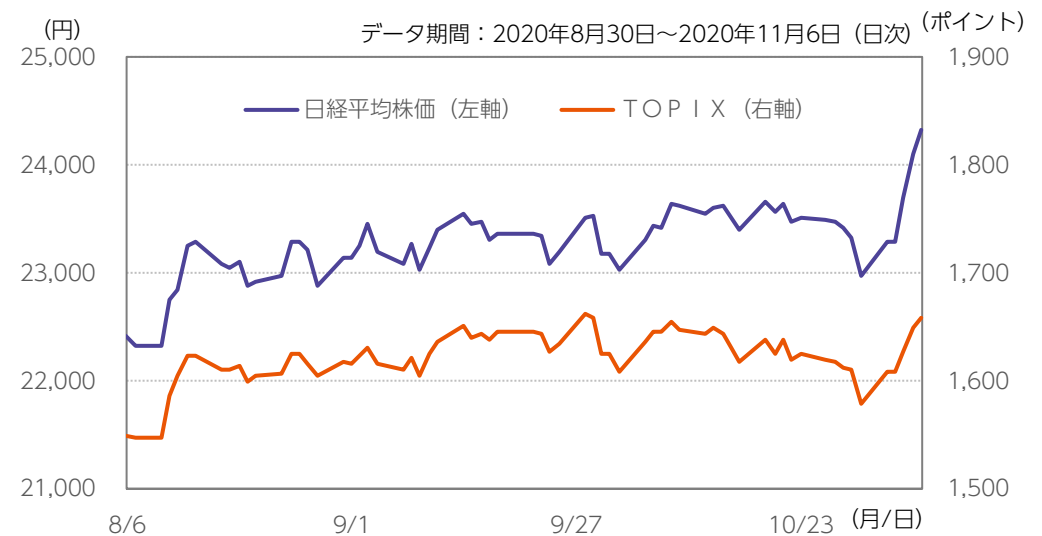
1) 先週の市場動向

指数名	国	前週末 2020/10/30	先週末 2020/11/6	前週末比 (%)
日経平均株価 (円)		22,977.13	24,325.23	5.87 ↑
TOPIX (東証株価指数)		1,579.33	1,658.49	5.01 ↑
ダウ工業株30種平均 (ドル)		26,501.60	28,323.40	6.87 ↑
S&P500種指数		3,269.96	3,509.44	7.32 ↑
ユーロ・ストックス50指数		2,958.21	3,204.05	8.31 ↑
S&P/ASX300指数		5,908.60	6,170.81	4.44 ↑
上海総合指数		3,224.53	3,312.16	2.72 ↑
MSCI AC アジア (除く日本)※		892.43	941.97	5.55 ↑
東証REIT指数		1,635.35	1,691.60	3.44 ↑
FTSE NAREIT All-Equity REIT 指数		642.32	669.87	4.29 ↑
ASX300 REIT 指数		1,285.70	1,386.60	7.85 ↑
グローバルREIT (除く日本)※		151.56	158.21	4.39 ↑
日本10年国債 (%)		0.042	0.021	▲0.021 ↓
米国10年国債 (%)		0.874	0.819	▲0.055 ↓
ドイツ10年国債 (%)		▲0.627	▲0.621	0.006 ↑
英国10年国債 (%)		0.262	0.274	0.012 ↑
ドル/円		104.66	103.35	▲1.25 ↓
ユーロ/円		121.93	122.71	0.64 ↑
英ポンド/円		135.52	135.98	0.34 ↑
豪ドル/円		73.56	75.02	1.99 ↑
フィラデルフィア半導体指数		2,246.15	2,529.27	12.60 ↑
WTI原油先物 (ドル)		35.79	37.14	3.77 ↑
CRB 指数		144.73	147.70	2.05 ↑
アレリアンMLP指数		640.15	644.95	0.75 ↑

2) 日本の株式・債券市場

≪ 株式 ≫

日本株式市場（日経平均株価）は、前週末比で上昇となりました。前週に大きく下落した反動から、決算発表銘柄を中心に自律反発狙いの買いが優勢となり、週初から上昇しました。その後も、米国大統領選の開票が進み、民主党が大統領選と上下院選の全てで勝利する所謂“ブルーウェーブ”の可能性が後退したことで、民主党による金融機関やIT（情報技術）企業等への規制強化などの懸念が和らぎ、週末まで上昇となりました。週末には、1991年11月以来約29年ぶりの高値をつけました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
※現地通貨ベース * ▲はマイナスを表します。

≪ 債券 ≫

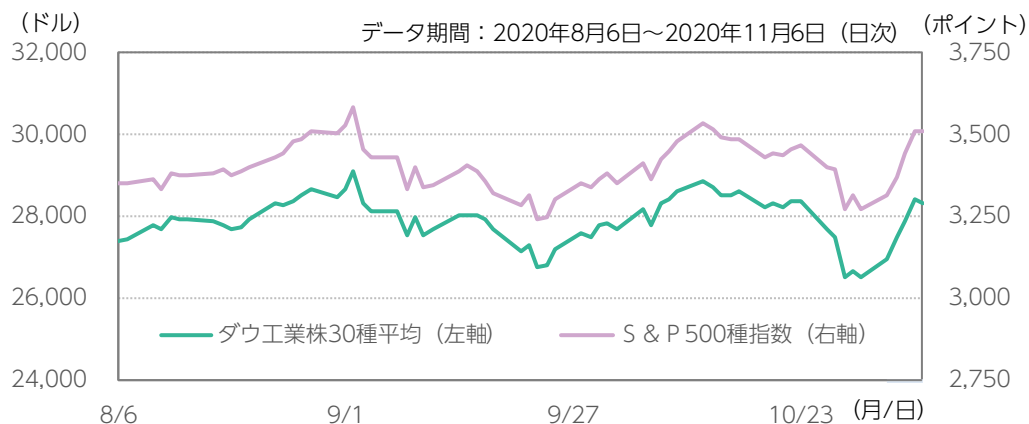
日本債券市場（10年国債金利）は、前週末比で低下となりました。財務省が実施した10年国債入札で、投資家の旺盛な需要が確認されたことから債券需給の引き締まりを見込んだ買いが優勢となりました。また、需給不安の後退などを背景に週央以降、米長期金利が低下したことも、国内債券の買い要因となりました（利回りは低下）。



3) 米国の株式市場

≪ 株式 ≫

米国株式市場（NYダウ）は前週末比で上昇となりました。良好な米経済指標の結果や、大統領選後の財政政策成立への期待から週初は上昇となりました。その後も“ねじれ（上院・下院の多数派政党が異なる状態）議会”となる見通しが高まると、民主党による増税やIT企業等への規制強化の懸念が和らぎ上昇基調となりました。



4) 外国為替市場

米ドル/円相場は、前週末比で円高米ドル安となりました。米国で“ねじれ議会”となる見通しが高まり、大規模な財政出動のための国債増発懸念が後退すると、米長期金利が低下し、日米金利差の縮小観測による円買い米ドル売りが優勢となりました。



5) 今週の見通しについて

先週の株式市場は、米国大統領選で民主党候補のバイデン氏が優勢となったことなどから、前週末比で上昇となりました。

11月3日より開票が続いている米国大統領選挙は、民主党のバイデン候補の当選が有力となっています。また、議会選挙では、上院は共和党、下院は民主党が多数派となる“ねじれ議会”になるとの見通しが優勢で、法人税増税や企業への規制強化など民主党主導の大規模な政策変更が阻止されるとの見方が広がっているようです。

劣勢となっているトランプ氏は自身の敗北を認めておらず、郵便投票の開票結果などをめぐり、ペンシルバニア州などの激戦州で州当局と法廷で争う構えを示しています。しかし、市場はバイデン氏の当選が確実となったことを好感しているものと思われます。今週の株式市場は、バイデン新政権の政策期待から上昇すると予想します。ただし、大統領選の最終決着まで時間がかかることとなれば、民主・共和両党間で協議が続いている追加経済対策の成立が遅れることも懸念され、米国経済の先行き不透明感から様子見ムードが強まるものとみられます。

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>

**ニッセイアセットマネジメント株式会社**

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120 - 762 - 506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>